

角本水經

大清光緒癸卯



馬印

卷六
金



乃あは木の門の松
詠あふかれました年越屋

見立く事ある利後
まづふかれました年越屋

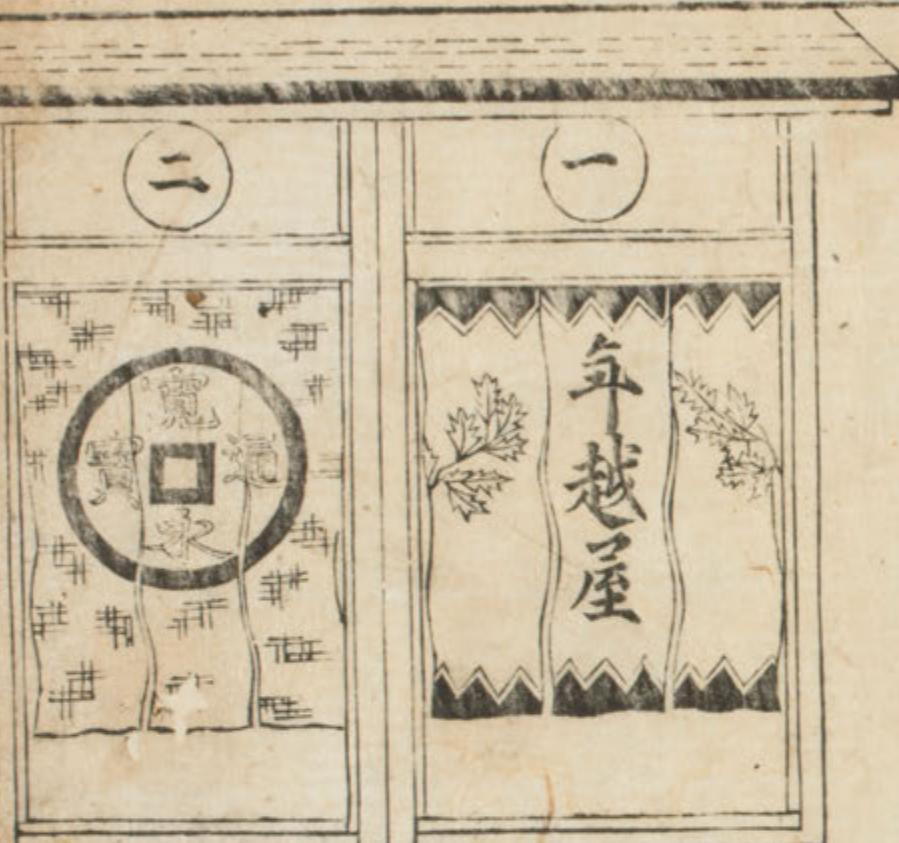
猿屋

月本永代益

月孫

一

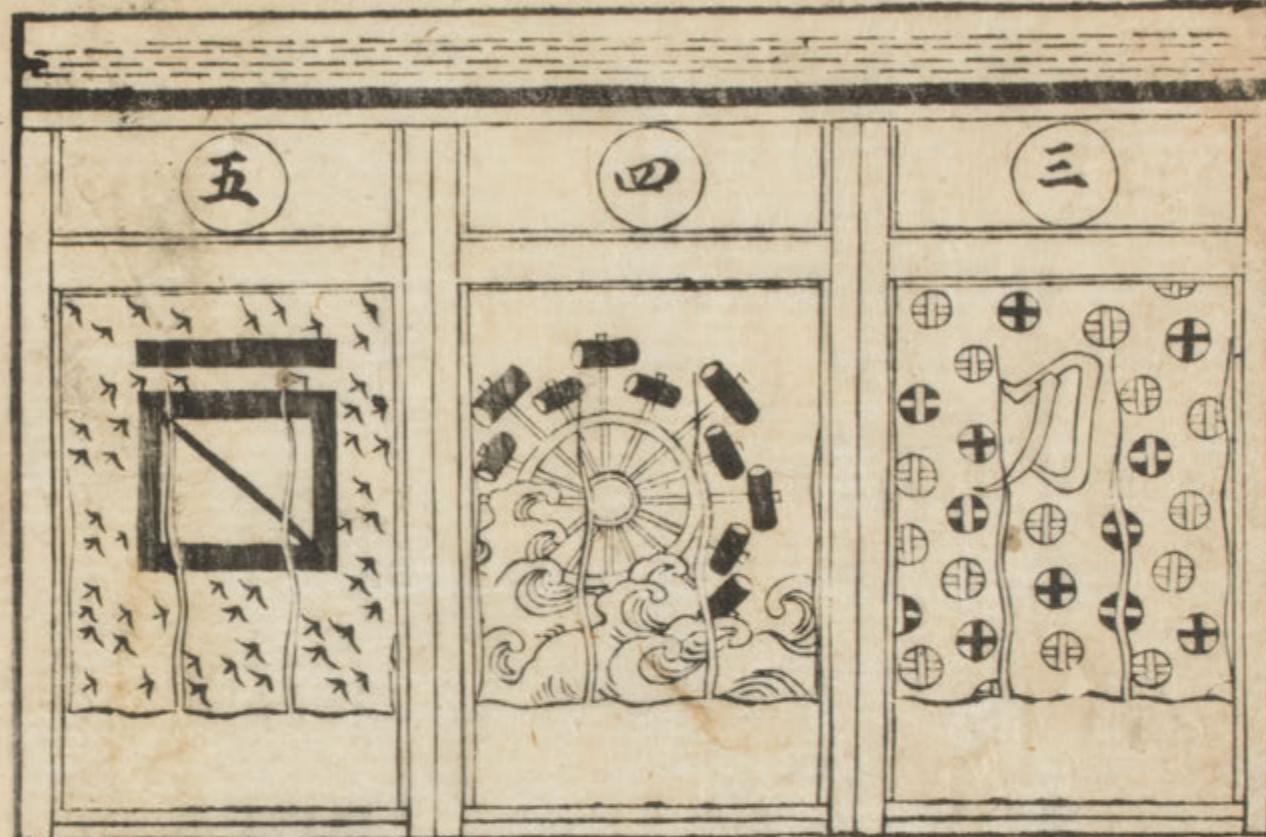
二



冥玉のせれんやとの時
泉引水がれあた小刀屋乃
業代

身体のこよみを漫遊
山城ふかね船を三島
み車

脅氣とすす八十の外様
今乃教小から取れ
三支ぬどひよ

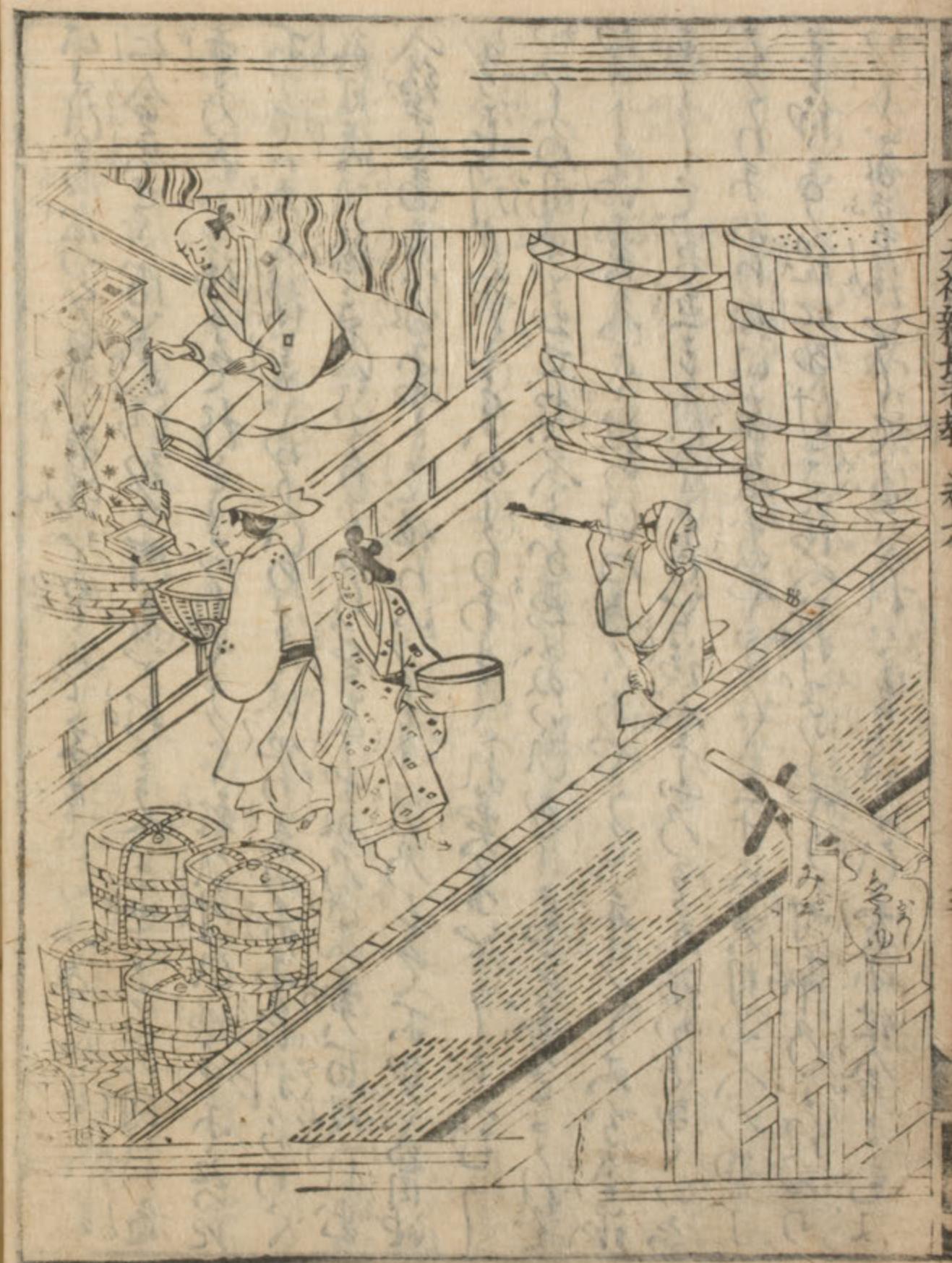
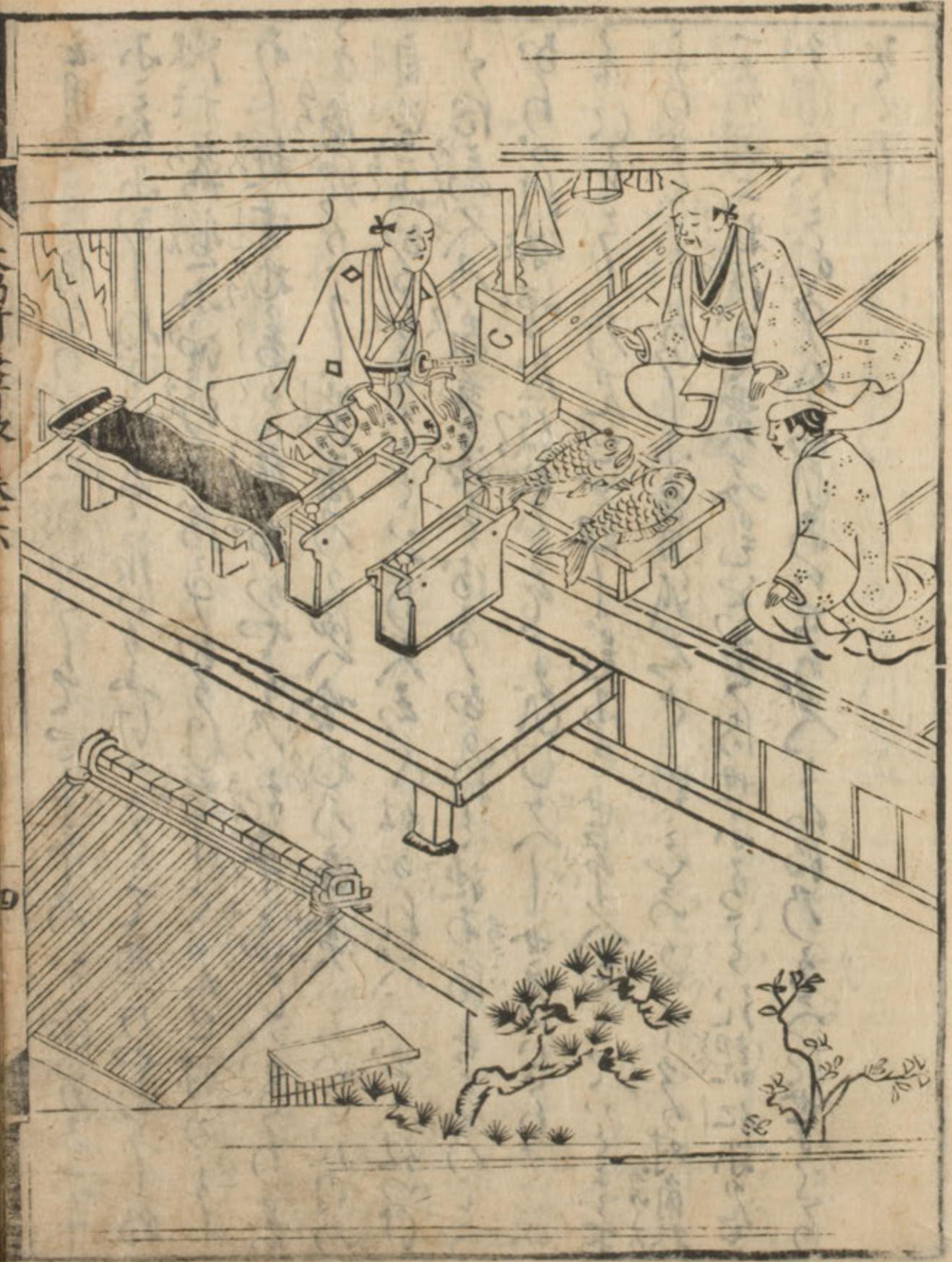


ノ一 狼乃なは木門口乃換

廟トウ文王乃國トナ七十里セイリ方カタ而アリとやうりも肉ミのふ草ス万
木キ乃縁エニ而アリ一間イハ而アリ方カタの畠カタ地ジ小格コハシモト極ヒツく力カクきモ
豪カウ屋ヤ翁カシマとちへハ樂ヨハシびひ乃うばすスアリ. 家カニふ歎カクあり乃圓
教カウ製シテ乃大漆カハラ小年シテ誠シテ乃絶ゼツ一イそく. 之連シテ人ヒトよ
翁カシマ人ヒトもうづス小家ス小家ス宗ス多ス世ス死ス方カタ小ス一イそく. が泥ス小水
そそくへ山カタ每スル日ヒ賣スル小ス赤ス白ス青ス黄スとス小ス捕スル繕スル
とス換スルへは費スルかぎりあ. 时ヒ小スけ就ス仁ス工ス仕ス却スて七月
まづはれ翁カシマと極ヒツひ集スル. 一年イヒ中の小賣スル味ス骨スとスめりえ
利發スルせよ小兒カニも小スつスもれ圓スりあ. 骨スもく大ス空スお
とス笑スルりとめま庭カニ木スもれ咲スルとスあぐみ. 生スル頃ス也拘スルス

か木と萬々也。森の宿ひまた風車八十八まで。小池等おがく
蔓ふをえぬれも。あめとみり。海月桶乃も。うふを蔓。藤
使見にがく。縫れ。ひじ。色。忍。あ。仕業。か。じ。一枝うち。被せ
大木とあり。とも。あ。の。道。あ。う。そ。ある。年。封。主。と。あ。の。人。が
而。も。の。和。毛。尼。乃。因。波。そ。の。毛。と。用。い。一枝。つ。の。ゆ。と。一。代。ど。
ん。ぐ。き。方。三。ふ。ぬ。ね。ま。で。れ。慈。日。や。福。れ。野。ひ。く。え。い。往。う
お。慈。小。幸。乃。理。わ。り。く。約。木。と。所。小。中。立。乃。今。も。く。因。ま
う。あ。の。ま。あ。ひ。く。あ。も。り。今。因。乃。ね。慈。生。魚。と。潤。へ。世。ろ。に。慈。り。
絆。れ。れ。も。橋。二。十。八。人。肩。と。あ。く。わ。く。り。と。防。親。竹。の。角。橋。一。筋。ふ
橋。繩。一。掛。紙。を。ね。去。入。乃。統。ま。か。く。兩。と。や。る。て。大。ま。め。
舟。つ。引。く。浪。を。牧。し。り。が。こ。ざ。う。ふ。と。く。見。す。江。水。深。三。費
ト。ヤ。く。れ。一。是。經。不。世。ろ。と。あ。く。ひ。な。以。正。坐。す。く。い。す。六
十。キ。風。ま。く。影。ま。れ。多。あ。よ。り。ね。と。奈。乃。く。ト。め。く。て。

び。じ。嘉。心。づ。く。り。の。善。徳。と。や。く。ど。み。ち。れ。ふ。ゆ。中。く。朝
仁。金。恩。せ。ま。い。は。と。慈。濟。あ。う。町。扇。と。ね。と。又。三。世。ま。の。因。行。扇
寺。乃。去。を。橋。ま。で。ね。ま。り。や。う。く。終。ひ。け。い。徳。ゆ。ふ。れ。つ。に
ふ。そ。そ。ハ。天。徳。あ。く。お。り。ひ。の。ま。く。し。徳。り。立。ぶ。あ。小。名。が。う。ら。く
毎。日。送。ひ。湯。ま。で。ひ。う。り。も。ろ。を。立。し。あ。乃。朱。毫。白。犧。れ。出
入。経。て。高。奏。徳。ふ。や。え。徳。り。ひ。く。味。官。乃。と。て。不。少。く。薦。油
か。う。と。川。り。あ。く。も。あ。も。り。あ。ま。れ。奏。手。と。う。ら。ひ。く
か。う。の。同。味。と。出。せ。ぶ。と。も。あ。思。お。ひ。か。一。先。を。奏。こ。ま。れ。そ
れ。う。う。高。奏。う。と。は。つ。け。ね。す。い。あ。や。う。く。年。く。く。大。か。全。銀
魚。く。て。冥。玉。も。れ。は。さ。う。り。と。清。全。山。乃。そ。ん。泥。か。ど。う。く。い。ま
ぐ。う。り。ふ。あ。り。ね。ば。家。屋。发。や。う。く。三。十。五。萬。圓。自。小。人。乃。酒。了
と。向。ゆ。貌。に。あ。げ。三。活。ハ。伴。ま。す。や。う。ハ。河。部。乃。じ。れ。り
か。か。家。善。徳。と。て。重。れ。ば。と。き。じ。奏。ふ。仕。合。と。乞。え



主用乃自傍あり親に朝りて三十九年乃か源男ふ六年
小主もふるりぬされハ全服ハリかけられて面うりや正テ乃
多十兵衛登小神山トサムアリムテお車とく車セ付のト
ア。被書也あき納布カヤ乃花車高夷ハカリムニ内乃
度近づク。笠屋乃く廻、吟也乃高夷、いちいまた内乃
自姿焉かうびとそり久もくはかれ人乃出入仕つけ
乃高人乃敵善情をばゆあうと連あはれもちも乃よ
あり。され味喰屋敷をそそびしつへ。女房いまりて演
ましとそり乃見せとせ。毛ふき世事人あくつてひとまふ
よりせもうよび。小吉見城もくねもうううううう時角精
一萬緋二枚残を費み毛とゆく方世小もと江親仁小毛を
名前於これゆ今毛ひあはせり。くもぬ乃まく見せまう
ぞ

オニ

見立とく坐高あり利發

和國乃高ひ口とく利済とくわんとや。誓文とくいは
是小もどゆ。病ふよもど冥求ひ。世乃かうり。わ
作男の紫乃あ小縁性属乃漏人方と漏。一年を
あ小枝はくはれはまむ。三毛もくらわらう。三毛もくぶ志へ
つゆく一代乃くくくもとせとかりひふく。花臺
外よりろじぐれとくく。漱々お乃セうけもくり出玉。
福くんあられあれ。百れぬと百とあり乃まくひひれ。
是と称されどましげどもく。より柳跡九門うか井
十二四。甲子年天目二十。速利七日。油。二月。三年。わより
おひと色。齋。ども。色。すよ。高。い。よ。あ。ハ。お。も。高。記。す。こ
年中乃。學。文。と。十月。廿。日。乃。高。じ。と。う。に。う。う。と。一
ま。す。う。わ。り。も。日。の。法。勅。人。方。う。と。や。も。く。家。を。源。小。毛。

いわく、莫も波浪へ一家あらまじく酒をかく
卒主ゆりまさんふ下のこそえ小奇津より戸中の
ち社を居て外板山ふれんぐやうかり上ぐとらぐ
ゆの白浪へりくどきよおろれとあくせきは群ゆくに
毛群よしゆうめり人しう大股中みくらるす實相大船閣
やくぐれゆうふるふわりくふ乃あひと清り方へあと実ゆ
らう自船と海と風と常とらまゐとくほ小船の事
をね乃代全まきあ式あづくあと尾うらうとモハニ
す乃中綱あり、此と町人あらぶんうて肉丸つやうすい
ふゆ今お江戸ふとじ高人あらばとて喰たれのふとく杜絆ふ
とて綱をねど式のみむかうて喰たれのふとく杜絆ふ
けくえがどもふん合がれりあく、家小通町中橋
き小猪りんせぬとくらいられあまうつづくも日來へ

あゆ一乃人あれと一あ式あら綱と綱く多ひとれ候ふと
「うちて前もと色何んとくタ飯と候ひぬ人勢乃
いを乃中おば候候勢乃山田乃れく十年切く抱
腹うね十室小あは小あもとらひ一腰ととまとつてとく舍
くるな先ふ十室候候五そく山にありておとどく
せかとそかく官宿半小あふるうとゆひくら候やまく
毛とそもよ風情毛人乃用小かくらくとく綱とく内様
らへ一ふそれべと見れ綱乃様毛をあ式あとて背切
一あれびいとこれあくふ七まかトハラんづくふりあり
小判ひふ十八ゑみふうお薄ふけり算用もくわくの縁を
とくじやうか内ぬあり重綱干綱をひくひまあれひく
ふらの用。ゆきふるもとくもと常あかりぬゆとやば
卒主模毛とくのくそりとく行候もがまうりのよ代

こそとく行乃よりまへとあく。萬の右のよひにゆくもろ
いをとくまのあともうざむふいまと。萬年かくわ
みる程とあくまう天理にあら魚れありと親類中
よびと陰くゆぐりあく。山毛と青ふんあてあま
とめぐらべーと一筋小走ぬをふらひ入く作務乃続り
魚あ流乃へつうりうき時ふあまも中へまくら出いまくら
御。毛色あたうちふらふら人の程へうでけか。猿れども
圓りとへあはつひひを用あり。首尾どな时ひきれりども
費あり。猪小内肉花のゆせひそりねらればよ風アモ
りとそ人を乃備全れもとさんせどくとくとくとく
さぬうちふまよ乃のやくひめどくとやせがお成じひれ
とんごとま方ざくすとあたるをがめり。さうのう一張
も人乃あせかくとと毎年乃勤官を候とやくせられりを



令式より八百文をもつてせば外金子一百文をもつて済むるより
令ひは年あふりとくに多きと包みあつて封ド同ノ
年号月日書付並み小本尾とてよしとくとく高ひ
下ばかり包み重く附金子へとあらおりくへあはす
利便あら小判と長持乃座ふ入金年久あせらどんせ経
りぬ高人乃終もあわへとげゆくとくかく小あり給
どがくらうとけちまくじゆゆ戸小居かくやくく
あ乃男術是とくまよはれつねあそりタクちづく
考ふふるくわくわくので年乃うちふじ戸三義どりの
あもふあはゆとおもそと見ゆすめく支度をひきり
毎日候えわらむもあり一絆ひとく下向よ細木坊主
らうりお宿を經更後也第仙法あらひ乃くり
伏うてのちひなれられ外室あれは深せ山林せよ

小室小入乃行法事も一朝すねまじれ不徳人乃稱アラモト
小毛と賣也。そこでまた修つまむありて乃笠杖^{アシカツ}
足と後足を引うちもそとを腰^{ヒダ}づくを軽^{カス}めとひつり
きを毎日演ますけりとくも人乃修もつもの多^{カシ}がのど
えり方あるふゑと付後^{アフタ}のもの乃りうあは智^チと申て
おほれに自申^{アハシマ}る所あゆとくとく割思^{ハサシム}布もく自
ふりとく賣也。らんなり大袖^{オオヅク}がりけもかうれども
入外乃人のせぬゆふ十^ハ年^ハまねうちふ三分方^{ミツカイ}あひふ取
ふかのく畫敷^{ハナシ}鴻^{カク}ふ源^{スル}房^ルもくゆうりう青^{アヲ}就^{スル}水^{ミズ}あひとけ
うう^ハづくはんぐらう乃不^ハあれ^ハとく常^ハノモ^ハうに
そもも^ハうひ水^ハご^ハと文家^{アキ}印^{アシカ}とぞう人^{ヒト}一^ハ宿中^{スル}食^{スル}
羽^{アラシ}を付^ハ。そりよりもたれ^ハ込^ハ満^ハ身^ハよ^ハう^ハとむれ
乃纏綿^{アラシ}が^ハぬ^ハと綱^{アラシ}へ毛丸^{アラシ}の櫻^{アラシ}織^{アラシ}乃皮^{アラシ}

殺えを夷らしや。其後沙敷ふをあひとまちまろが
あともこぢく。中橋小内に歸てうれり。うれり
名前一代を取就。よりゆづらかくしてとぞれ。うれり
うれり。氣乃室町またくの男子仍も高貴
御ふ若ち。かどとれを大からぬ。うれり。うれり
うれり。毎日武田三千をもつて内に。よりふ入るに
何や。あつひの男。多び十八年。どうりふは成。寢もあひが
しゆ戸をやうにふくらむ。ぶ男乃事。うれり。寝の三面
キナ高見え。奉行。うれり。鞠のじく。また腰とゆう。楊
弓の金あく。いわ。まほら。人深。ゆう。山下角
たまと。かく。うれり。べ。東の湯。川傳。めぐれとく。み祭
ハ神。祭。祭。もよごす。て。あげ。枕。ぐへ。かどひつ。ふ。傳
自ふ候。とく。速。傳。と。傳。う。と。う。と。う。

作り。未ふをひひ。一。人中。こそ。も。よ。と。ひ。ひ。と。同
安。と。自。象。小。書。ひ。と。仰。ふ。ひ。と。り。く。か。稀。と。身。と
乃。太。ゆ。と。も。と。と。あ。わ。と。か。ゆ。と。ふ。く。う。と。と。ま。と
色。て。源。か。う。裏。用。か。と。つ。か。と。わ。と。い。と。と。か。く。傳。
山。内。か。用。小。立。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
傳。乃。指。も。あ。く。や。う。く。力。ひ。と。い。く。と。と。と。と。と。と。
自由。と。ね。と。や。ー。の。財。貨。う。け。く。又。と。と。と。と。と。
け。う。ん。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。
と。
と。

序三

支五
ハセノハヤシヒ時

毎年え日ひ書をてて三十日後記と申記す人ふ至り
せまつてわざとて自縛とひ附よなづく東引傳小刀
金をもとと密高人をとふ津ハキスムルから黒根シロヘビにし
きぬ人全持をねどもすとほ文房用乃物也と申すれ
度鐵先船よりみ代されとて實至もく肉餘ふるま
通人をもとと又寄た永平中より年へれ込金箱今よ一
度をむかぬ人をもとと又肉余十丁入理入焉と申詔
費用を附の封乃まかまひ盡を始縁は付内是
とりをそくばくうきく人をもと外よりへと處ひとをもく
きふかしひじ属とふをあふを附よひとをもく
乃書を三三共め百回ありしりこ十六年ううらふじぐの
れ縫小くはゆ。年々書をいもとて流下ひまわる時

八月又精費用紙を取一ふ小口アタラば人せつてくと
色を取ふあつもドウハミシ度紙とく入と系綿ト並
あからくじきと乃細アんど一を精入候ウツカウマ
おほやうのゆへえます。とよとひ入がひあつまふ島の
やまと經りとそそくらう紙又費用つ十八人うち又精費用
とびつんとと実並ましにされぬ年大もろれどぬく三
十六費用りうけうちとび乃わあ只ひとりの男あがり
かまうふこうひきか紙ふうと書生玉るひんさあく
さぬくみとつうかびくうりふんうううううううう
かうく療治うくせうくせうく引あひそれあづみにあんと
十乃細ち前もろいと仕立はよもくーかぬまく一門乃
わ復して脣管ふ勢くまにがくとあめありゑ、而ふ
機の向支國えあら葉障と志ふおのあひきやう人ふ面



國うちりんと移し今へせひあゆふく又まどゆへ年
あまり小畠れどもまよひはよ孫かくれり。就
乃力ふく候。されども小は脅かね候。乃く入候
日吉あれば某作ともう。されどもつうて是がくを
移もとあれべゑ次や。走ぬびゆとそくして是がくを
より一處。乃れ泥水教とモづとれ。肉食乃ひくそれ病
うて泥三教と稱とすのりふを泥百教云佛二十把
禱を病小翁もるひの外あり業代ぐとく。再三のあん
志やくお次乃人色かと泥泥百教情く。正體小のれを問。セ
どりもあを泥東小町お行かく。正體小のれを問。セ
ばりげれる。すみ。三十糞同小く。ねり。神そ。泥百教
乃素代や。の様子。ド。萬い。く町人。すれあ。うり。ひき
大お仕出。あさく。ト。あり

身許

身許かくす。泥川乃

人乃。剛ハ早川乃あ車乃。常。假。神。乃。と。も。の。す。
れ。御。乃。漏。モ。と。豆。取。セ。十。糞。同。小。つ。り。あ。乃。行。本
え。か。そ。り。わ。る。か。れ。び。人。另。一。モ。そ。う。お。り。く。總。ノ。り。
か。老。乃。漏。立。度。乃。里。小。ミ。と。左。裏。と。つ。る。人。モ。下。め。ち
引。れ。家。業。あ。り。し。自。施。れ。社。合。乃。く。も。内。あ。り。
ほ。く。も。ひ。月。面。乃。泥。長。尾。と。も。泥。鍊。く。里。人。ち。較。並
ひ。そ。人。足。と。集。わ。じ。あ。と。あ。で。ふ。小。橋。つ。ま。人。側。あ。れ
ま。よ。う。う。と。集。わ。じ。あ。と。あ。で。ふ。小。橋。つ。ま。人。側。あ。れ
ま。よ。う。う。と。集。わ。じ。あ。と。あ。で。ふ。小。橋。つ。ま。人。側。あ。れ
ま。よ。う。う。と。集。わ。じ。あ。と。あ。で。ふ。小。橋。つ。ま。人。側。あ。れ

十六日乃ち朝より漏れこまわ。漆あり。毛天乃あぐ
よろとひよごとて上部承うそを。びよくに賣多羅
小引ひのり乃まより費用小あまら。げ重乃まふと家
ねどりのきを乃か詫の乃どんせ乃是合めり
物の内と食す。ひまうけあくとせとふされ。或い
貌もろひづりとうけ又博奕業。そ織とほり細高
高ひ海船とらえく入舞も取山乃縦とすり人
うひとくもじ。魚うそとがめ。もあ乃もうくま
岸うそす。帝そとく派ふあら人。もとぬとあれ。人乃
あらと考のめの私あり。それの面く乃免格ふるるゆき
主とゆくやれど。小遣りまかせ。乃はくにせれ
ほまれく。経りゆく。人の債銀。ひまを。以てふゆりふつま
角く。御とどろにあらざく。自強と。主敵と。はが

毛衣花小物りあくま。細小勘定と立。もとれふさんを
さん振もろく。歎まば今町乃高へおなまく。身神ふ。無せ
さ。房主と。首人乃ねうそ。金利と。一六年乃。苦ふ。お
ろき。もと。も。あ。ら。と。施へあ。と。せ。お。れ。か。う。り。よ。く。陽。震
流軒とつけ町乃高。と。身。あ。ま。び。ふ。ま。と。ひ。琴。引。女。と
す。び。と。あ。ま。う。一。門。と。り。あ。ね。革。大。和。様。乃。う。ド。ウ。シ。種
ん。ふ。ぬ。り。と。お。れ。う。そ。そ。冥。れ。豪。乃。湯。ハ。出。ま。と。ウ。切
お。ふ。病。病。と。つ。う。久。セ。小。物。事。ハ。き。お。と。お。れ。と。貞。源。ト
金。屋。と。ひ。の。外。より。れ。り。か。セ。聲。て。賣。歌。り。れ。あ
年。も。と。じ。や。す。小。物。と。肉。料。戸。石。算。升。筒。小。な。久。人。の。あ
か。く。き。経。ひ。れ。ま。じ。ひ。ま。て。四。塊。と。冥。並。一。ま。れ。身。業。と。被
ら。へ。ま。外。み。ど。と。付。歌。ま。く。え。く。並。五。ま。う。美。用。し。て
三。を。ま。れ。ま。う。用。經。小。使。け。歌。と。う。れ。ま。く。え。く。ま。う。が。ら。る

翁人あらのあくわのびうふ漁まき／まきあをひかう／とこ魚
つりて本綿もとぬよもよ通りあらもやい、じよこまされ
風かぜととひなかみの小神こみわあらとてさうこも落おちとまぬまぬと
け傘ささ小竹こたけつえあらひひらくじくじくじくじくじく
て小判こばんいそあらんかくわ薦すすめすすめすすめのけざまの
やうふぶれゑあらそとおぞくらうあらせやうととか
あらと仲人なかにあらまや小猿さるあらまやまととあらと人ひとあらま
船ふねあらりびりた漁まきとお魚用さかなよう引ひとせ紫むらさみ
とくゆとくゆとくゆふと年とし魚大漁おさなぎ小三こさんお魚魚用さかなようと
夷國えいこく乃おも美うつく色いろあらもんもんととひふ人ひとあくま対たい代だいと
ねとよ廣ひろくありねねあふかりりせらひ金銀きんぎんせりく
つくづくけ色いろつつさんとよ高たかれゆゆうにい今いまあ
船ふねあらせまちふとらもやよととあるあらせまちまちの網あみ

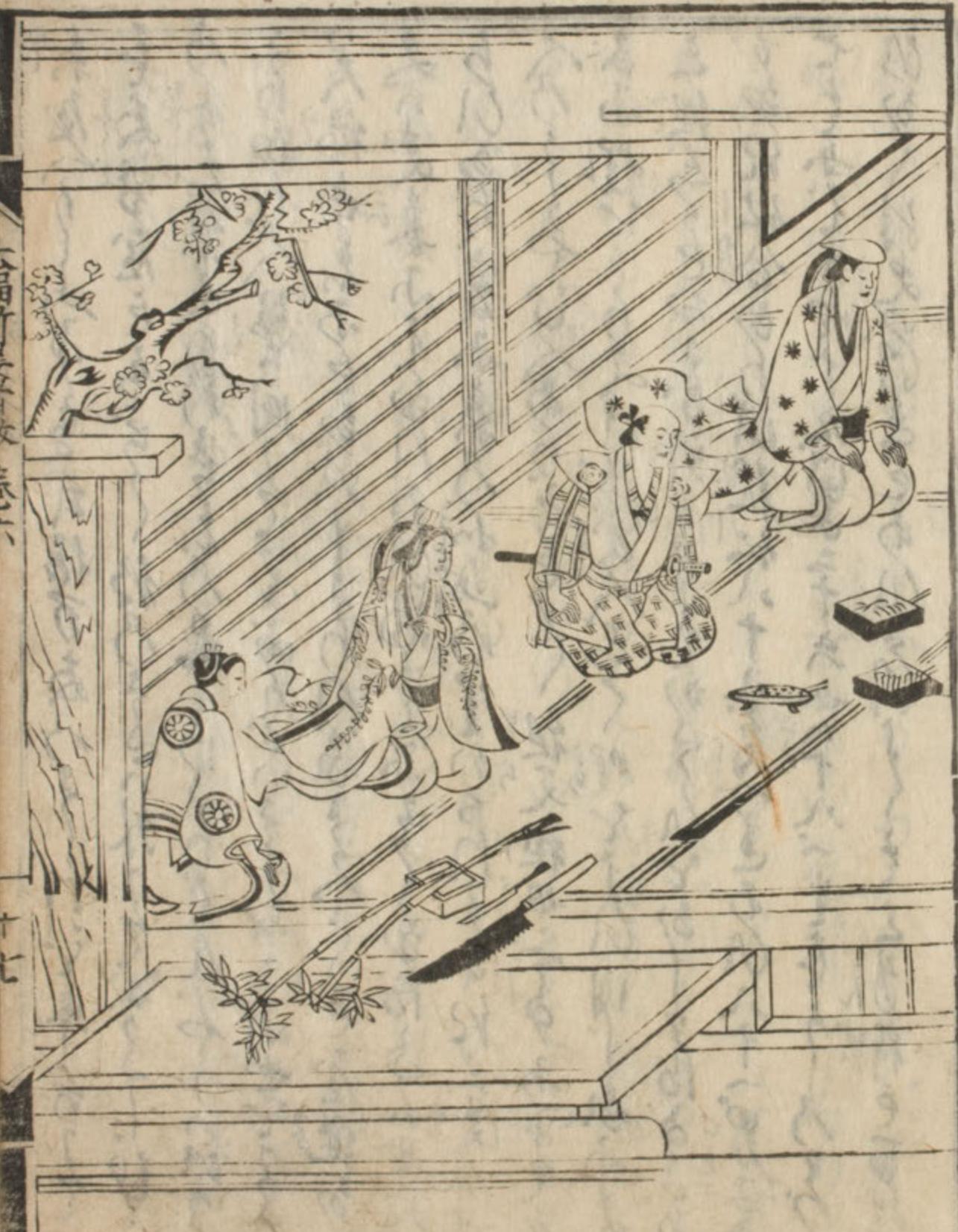
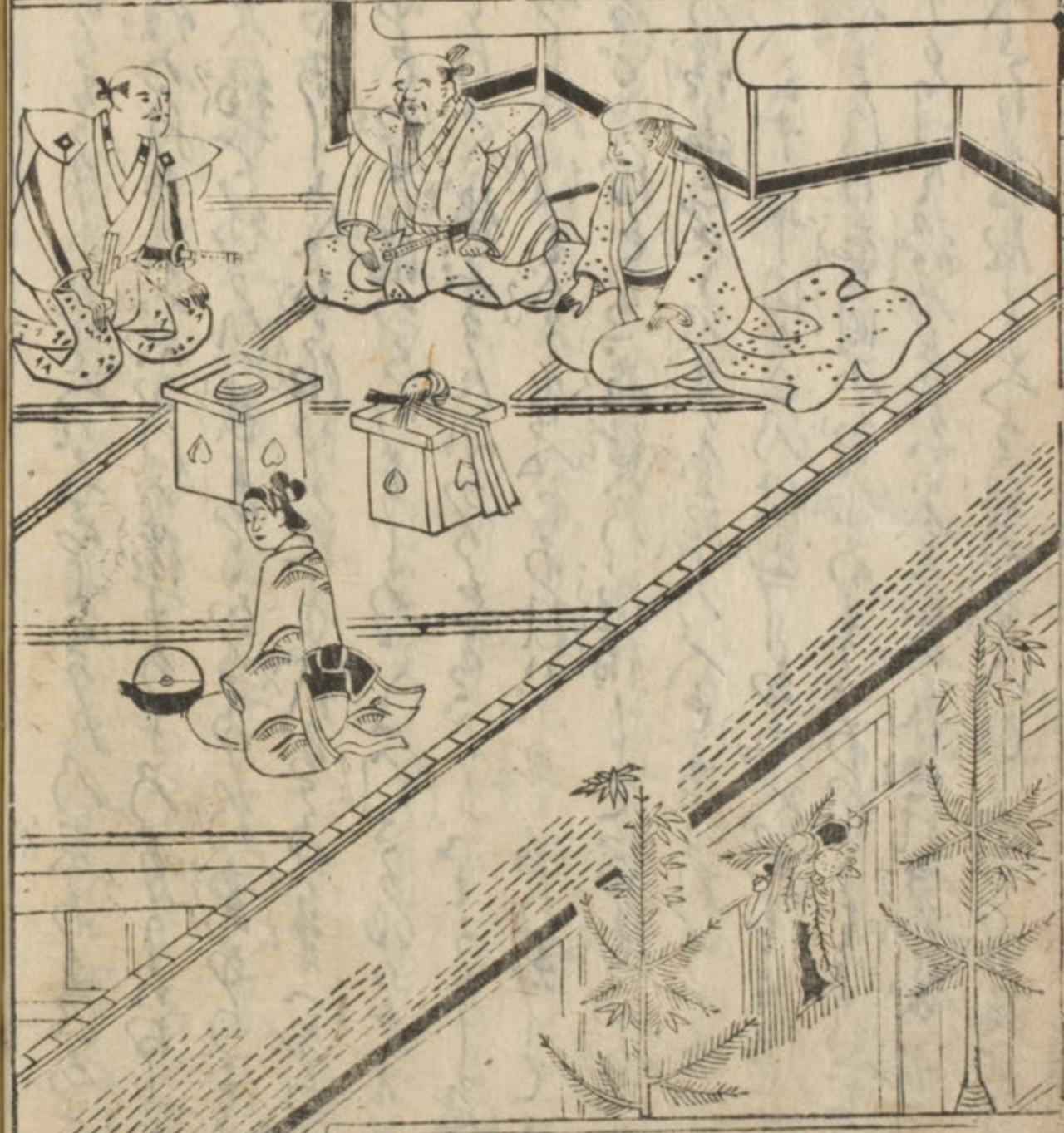


おうきをねとからとゆまゐと賣とせしむて
とやはれどれかのむらゆかりましれへ高めの車とおさえ
くあくくのりゆんらうめりば渡り人船の葉船とおもひ
いたがと泉あふ竹けあらわまとみとくとおひま
不淨乃る車あらとまくやくとくと、猿面の音休元
まくじと淡焼乃くわり鶴を鳥舞あかひ茶うららふ
今もとく御乃あててまねの尾まご漏れい繁留行
たとせわよととやにうち内石清み八幡えどやねうく
あんぞみとれどれど日出食うとありしがれゆひ見れ
卒主乃の翁大より方のと申と申とらへあらじと
きゆめとひあは減れ若くや大金れ下とり大木の庭と
あらうはあまく人趣ふもあづきとくづくとく
あくすゑひりともま殺却くまくらの浦あくゆ

中止

脅恵うきえとくは八十八ノ外機

せふ乃ひわまゆ今もひあまり方乃高めのとそ
然人奉くくわじゆをとて定アス年カリせれけ
まりーはとくめりふ丸保えん付属ふぞく小仕出
まばへわまくる來をと捨てまわら可也も食
ふ縁えん乃と縁えんアシテトシラヘシトモりへ
ねとすくふありぬもあとやうへとあれとまくの
度たかまくらゆまくのあいかまくと江戸の後つ
くの花の葉來まくもくもくのあいかまくと江戸の後つ
つき給ふとせとまくらゆまくと江戸の後つ
か五月を下され綿入と織の浦ゆゑ色板いろいた
乃後事ひくわくとげあり奉まく用とおり重い物



あはへりよるるを候方ありと申すてゆ
モ支那屋をもどりて外にておがてし
乃ちお終きの朝もまづんじうは深く
さりありへと云ふてもざんじうふせども内
ノ人福ともあらばもざりぬまことくを企候か
又夫妻ふもあれわいゆもふそくを防ぐゆれか
らひあり家ふ東乃山乃里かられむかに三支候を
今うやじんわらうもく祖父母をゆてえ
みふ理ととりえ孫世人をく理とよし用へ故小支候
と祖あるをかまう引力こそがくひとくをゆうす
よりは仕合ありげ親父八十半多つゝあり八十男より
ても女六十室十九娘三十女十八生もく八五
ひかく付え所をもあひき前もくもとより作を百疋乃

れひづまふ田舎牛る男女なりつひん草とあ
めりた國が乃世の中勤とて薪水也耕とより佛
と候んあくちの内へとまよはりとく八十八歳の
年乃ち一九〇〇年秋の事也外格とくせうひと
仰り竹乃事と色切絞りお絞乃高人毛と
ぞもうちて高貴ふ仕合のとくよくそもやあく
ミ丈坂乃井のじとく儀物もとほふがれまのよいぢり
と東乃長あじ外のじとく自足とくそりとくとく今
ふうしてまつたうやかり金取をあつてあらゆる
字候と申す大福地ふらうとあ久もく是とく
人ふらふをかねと申すと永代無ふるはう津ゆ

辭めり

此亦

弓

人八代居八代

義之郊

甚矣記

礼之郊

全經八冊

智之郊

伝之郊

板行社

京

書林

神田新革屋町

全屋長樂院

西村梅風軒

貞享五年正月高日

大坂

書肆

森田庄太郎刊板

印

重

金

110X
328
6